

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 9 月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490900036		
法人名	有限会社 まつした		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	広島県三原市明神二丁目11-13 (電話) 0848-67-0294		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490900036-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・入居者の笑顔が多く見られるように、一人一人に合った対応を心掛けている。・入居者が安全に、安心して生活ができるグループホーム作りを目指している。・医療機関と適宜連携を行い、異常の早期発見に努めている。・職員が介護全般・認知症についての学習機会を持ち、技術・知識の向上、自己研鑽に努めている。また、社内での研修も行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>静かな環境だが近くにスーパーや内科医、歯科医があり立地条件は非常に良い。 食事は3食手作りで提供されており、食事に対する思い入れが強く入居者に大変喜ばれている。季節を感じられるように、壁画作りにも力を入れており過ごしやすい雰囲気、生活出来るように工夫されている。 今後は看取りに向けた研修を実施し、人生の最後まで穏やかに過ごしていただけるように支援していく予定である。</p>

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所として4つの理念を設定し、玄関・スタッフルームに掲示し、会議等において理念について確認する場を持っている。 理念を意識した介護・援助を心掛け、入居者のご家族等にも説明している。	理念を玄関とスタッフルームの見やすいところに掲示している。月1回のミーティング時には皆で唱和する事で共有を図り、理念をもとにケア方針を話し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の祭り等へのお誘いがあったり、地域の保育園児が訪問してくれる。 地域行事へ参加したり、ホームに地域の人たちに来ていただいたりして交流を持っている。	地域とのつながりの中で、お盆に行われるお祭りに参加したり、幼稚園小学校の行事がある際には、声がかかるような繋がりもある。	地域の町内会との繋がりを密にして行く事で、助け、助けられる関係づくりをより深く図っていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で実際に入居者に介護として行っている対応方法等を話したり、行事や日々の生活の様子を写真で報告して、地域の方たちには理解を深めていただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に運営委推進しており、事業所内での取組みや入居者の状況等について報告し、場合によっては意見をいただいたりしている。	運営推進会議では、市の職員、薬局の薬剤師、民生委員が必ず出席していただけた関係が築かれている。そこでは、グループホームでの状況や、事故検討など幅広く会議されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事故等があった際には早急に連絡を行い、対応をしている。 また、不明な点等がある際には頻繁に連絡を取り、助言を受けている。	介護保険の更新の際には窓口に行くことで顔の見える関係を築けており、報酬改定による相談や細かな相談も親身に対応していただけるようになっている。	

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束にあたるケアや原則について会議等で再三、確認を行っている。また、職員による身体拘束の研修を行い知識向上に努めている。やむを得ず、玄関等を施錠する場合は常時するのではなく、必要最小限にするように徹底している。</p>	<p>何年も前には身体拘束をしていたこともあったが、現在は年に2回研修会を実施しているため身体拘束を行った事例はない。万が一の状況があったときに備え、書類等の整備もしっかりとなされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年1回は高齢者虐待防止法に基づく虐待の定義の確認を行っている。ミーティング等で実際に行っている。ケアが虐待に該当しないか検討している。また日々の業務においても、当日出勤の職員と相談し虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者に後見等が必要な方はいないが広島県社会福祉士会パートナーで成年後見活動をしている社会福祉士が職員にいますので、成年後見制度について職員説明をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者が契約時には重要事項説明書と契約書について十分説明を行い疑問点がある場合には丁寧に説明を行い対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、自由に意見を書いていただける準備をしている。面会に来られたときには、状況報告を行いながら家族の意見を聞くようにしている。利用者との要望は日々の職員との会話から把握し職員間で共有している。</p>	<p>日々の面会時には、意見要望をしっかりと聞くようにしている。意見の中には、若い頃からの生活歴を教えてください、その人に合った生活になるように改善した事例もある。</p>	

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、ミーティング時に代表者や管理者も参加している。 運営や介護方法の意見交換を行い、職員の提案等を検討する機会を持っている。	普段から、話しやすい雰囲気があり、要望があったときはその都度伝えるようにしている。その中には、ユニホームのデザインを変更したり、働きやすい生地に変更した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	経営サイドとも話し合いの場を持ち、仕事がしやすい、やりがいのある環境であるように努めている。 場合によっては代表者と職員の個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修等へも積極的に参加し、勉強する機会を持っている。 施設内でも互いに教えあう姿勢で日々、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の事業所が集まる会議等へ参加し、意見交換等を行い、他の事業所の良いところは取り入れたりするようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人やご家族から今までの生活歴や思い等を聞きとり、本人様が安心して生活ができるように対応している。		

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際には自宅でどのようなことに困っていたかを聞いている。また、入居にあたって不安なことがないかを聞くようにして、対応方法を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの利用が妥当ではないと判断した場合には、現在の状況に適したサービス等の説明・紹介を行うような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分でできることは自分ですするという自立支援の考えに基づき、出来ることには積極的に参加してもらうような対応を心掛けている。入居者本人の出来る力を職員は見つけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時には、日頃の生活状況をお伝えしている。入居後もご家族との外出等は、積極的にしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人が訪ねてくる人もおり、自分の部屋でゆっくりと話が出来るようにしている。来訪しやすい雰囲気作りをしている。	来訪者には話しかけ、関係が途切れないように関わりを持っている。中には携帯電話の持ち込みも許可している。また、手紙や年賀状を出すことで関係づくりを支援し、なじみの方との繋がりが継続出来るように支援されている。	

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の個性に合わせたリビングでの席の配置等は常に検討している。一人一人が安心感を持って穏やかに生活ができるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要があれば、ご家族等の相談には応じる。必要があれば関係機関等へ繋ぐようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の意向は十分に聞き、本人の思いも出来る限り聞いて、介護計画に反映させている。	日々の暮らしの中での会話の中から、思いを組み入れるようにしている。ゲームやひなたぼっこをしたり、楽しみのある生活につながるように工夫している。うまく話せない方には、ジェスチャーを通してなるべく意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活習慣の把握に努め、本人のケアに活用できそうなことは積極的に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の出来ることとできないことの見極めは常時行っており、出来ることはこれからも出来るように援助している。		

自己評価	外部評価	(1F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のミーティングで入居者の状況等について話し合いの場を持ち、その時々に応じたケアプランを作成している。必要に応じて主治医等からも意見をもらっている。</p>	<p>日々のケアの中で、各職員に状況を聞き、皆の意見をまとめた上で、ケアプラン原案を作成している。その原案をもとに月に1回のミーティングにおいて共有し、ケアプラン化して実際のケアに繋げている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録に生活状況のすべてを記録するようにしており、職員間で情報共有が出来るように申し送りノートも活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホームで対応できないような場合は関係機関に相談をして、入居者のニーズに応えられるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の地域資源を完全に把握は出来ないが、今後、入居者に合うような社会資源がある場合は、コーディネーターできるように援助していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>万全の健康管理を行うために協力医療機関と連携し、異常の早期発見、重度化予防に努めている。必要に応じて専門医の受診も行っている。</p>	<p>近所に内科医と歯科医があり、協力病院として週に1回往診して頂けている。日中はすぐに診察していただける体制作りがなされている。また、専門医には、その都度対応している。中にはなじみのかかりつけ医を継続して希望している方には、その関係が途切れないように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	(1F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>現在、看護職員は勤務していないが協力医療機関と連携し、健康管理に努め、異常がある場合は連絡し対応してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には入居時の情報提供を行い退院時には必要に応じて、担当医等とのカンファレンスに参加し、退院後もスムーズにホームでの生活が出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>現在、看取りは行っていないが重度化した場合でも、ご家族等と相談しながら出来る限り対応をしている。</p>	<p>現在まで看取りを行った事はないが、今後看取りをしていく考えがあり研修を重ねて、不安のないような体制を整えていく予定である。また、重度化した場合には、協力医院の医師と連携をとりながら対応できる体制作りが構築できている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>年に1回救命救急の訓練に職員は参加し、事故等の緊急時にも対応出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の消防訓練を実施しており、今後とも継続して行っていく。</p>	<p>年に2回、消防訓練を実施しておりそのうち一回は消防署立ち会いの元行っている。訓練後には、水害等を想定しての研修もあり今後の災害に備えている。また、備蓄の水の確保も十分にあり、災害に対する意識が高い。</p>	

自己評価	外部評価	(1F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報外部に漏れないように細心の注意を払っている。 特に入居者の個人名はアルファベット4文字を用いて表記し、個人名が特定されないように配慮している。 (例：三原太郎様 → MIHT様)	プライバシーに関する研修を定期的に行っている。他の利用者には分からないように耳元で声かけを行ったり、外部へファイルを持ち出す際には、アルファベットで表記し、他者への情報が漏れるのを防いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の気持ちや思いを聞き出せるような声掛けの仕方の工夫等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の入居者の生活のペースに合わせて、職員の都合を押し付けることをしないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みを取り入れた服や靴等の選定をしている。好み等はご家族の方にも聞くようにしている。 地域的美容院にも協力してもらい美容院の送迎でカットやカラーリングに行かれる入居者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、職員と一緒に調理や片付けに参加していただけるように対応している。 入居者の誕生日にはちらし寿司やケーキを作っており、楽しみにして下さる入居者もいる。	入居者の食事を楽しむ原点の元、三食手作りにて提供している。メニューの中で、高齢者の方でも食べやすい調理方法を考えたり、下準備では入居者と一緒に野菜の皮むきも行っている。 また、季節を感じられるように、ぜんざいやホットケーキなども提供されている。	

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者一人一人が食べやすいように工夫している。個々の水分摂取量と食事摂取量を介護記録に記入している。食事は栄養バランスを考えたものを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内の異常や義歯の不具合等がある場合は近隣の歯科に受診し診察をもらっている。定期的に歯の掃除に行かれる利用者の方もいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し，出来るだけ自分でトイレで排泄ができるように状態に合わせた援助をしている。</p>	<p>排泄チェック表をもとに，排泄間隔を皆で共有し，把握することで事前に排泄できるように工夫できている。また，病院でオムツを使用していた入居者もトイレでの排泄を支援することで自立支援につなげた事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量に留意し，便秘を予防している。慢性的な便秘の場合には，主治医にも相談している。毎朝牛乳を飲んでいただいている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人のタイミングを聞いて，気持ちよく入浴していただけるように対応している。</p>	<p>入浴でのマンツーマンでの時間を大切に，入浴を通してコミュニケーションが図れることで信頼関係が深くなり，より良い支援に繋げている。また，季節を感じていただくためにゆずを入れて香りを楽しめる工夫もされている。</p>	

自己評価	外部評価	(1F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の生活習慣に合わせて、日 中も自分の居室で好きな時に休 息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	連携している保険調剤薬局の薬 剤師に処方薬の作用・副作用等 の説明をもらっている。 状態に応じて粉碎等をしてもら い、内服しやすいようにしてい る。 薬の変更や状態変化があるとき には、申し送りで連携を図って いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	自分のしたいことができるよう にご家族の方とも協力しながら 、対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	年に1～2回は入居者と職員が 一緒に外出する機会を持てるよ うにしている。 ご家族の方と定期的に外出す る入居者も多くいらっしゃる。	外に散歩に出かけることが困 難な方もベランダに出て、外の 空気に触れたりする工夫もある 。ご家族との信頼関係が構築 できているため、多くの入居 者が美容院や外食を楽しむ為 の協力体制ができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	家族の協力で所持したい方は 所持できるような体制にしてい る。 一緒におやつを買いに行ったり 頼まれることもある。		

自己評価	外部評価	(1F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話も手紙も自由にやり取りをしていただく。 出された手紙に返信が届きとても喜ばれたりされる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに季節感を出すために毎月、壁画を工夫している。 リビングは日当たりが良いので、自然な光で過ごしている。 リビングにいる入居者が天気の変化に気付いて職員に教えてくれることも多い。	リビングには季節の壁画や入居者による塗り絵のカレンダーが掲示しており、落ち着いた雰囲気が出るように共用空間作りがなされている。また、ソファ等も設置しており、ゆったりと過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人一人、自分のしたいことが出来る様に配慮している。また、入居者同士で協力して作業を行われることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には自分が自宅で生活していた時に使用していたものを持ち込んでもらうようにご家族にお願いしている。 利用者様の中には家族の写真を飾られている方もおられる。	タンスとエアコンはグループホームで設置してある。そのほかの、家具やテレビ、寝具などは持ち込みが自由となっている。写真や本人の作品なども展示しており、居心地よく過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレやテーブル、居室等にはわかりやすいように、名札・目印をつけて対応している。		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所として4つの理念を設定し、玄関・スタッフルームに掲示し、会議等において理念について確認する場を持っている。 理念を意識した介護・援助を心掛け、入居者のご家族等にも説明している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の祭り等へのお誘いがあったり地域の保育園児が訪問してくれる地域行事へ参加したりホームに地域の人たちに来ていただいたりして交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で実際に入居者に介護として行っている対応方法等を話したり、行事や日々の生活の様子を写真で報告して、地域の方たちには理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に運営委推進しており、事業所内での取組みや入居者の状況等について報告し、場合によっては意見をいただいたりしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事故等があった際には早急に連絡を行い、対応をしている また、不明な点等がある際には頻繁に連絡を取り、助言を受けている。		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束にあたるケアや原則について会議等で再三、確認を行っている。また、職員による身体拘束の研修を行い知識向上に努めている。やむを得ず、玄関等を施錠する場合は常時するのではなく、必要最小限にするように徹底している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年1回は高齢者虐待防止法に基づく虐待の定義の確認を行っている。ミーティング等で実際に行っているケアが虐待に該当しないか検討している。また日々の業務においても、当日出勤の職員と相談し虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者に後見等が必要な方はいないが広島県社会福祉士会パートナーで成年後見活動をしている社会福祉士が職員にいますので、成年後見制度について職員に説明をしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者が契約時には重要事項説明書と契約書について十分説明を行い疑問点がある場合には丁寧に説明を行い対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、自由に意見を書いていただける準備をしている。面会に来られたときには、状況報告を行いながら家族の意見を聞くようにしている。利用者との要望は日々の職員との会話から把握し職員間で共有している。</p>		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、ミーティング時に代表者や管理者も参加している。 運営や介護方法の意見交換を行い、職員の提案等を検討する機会を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	経営サイドとも話し合いの場を持ち、仕事がしやすい、やりがいのある環境であるように努めている。 場合によっては代表者と職員の個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修等へも積極的に参加し勉強する機会を持っている。 施設内でも互いに教えあう姿勢で日々、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の事業所が集まる会議等へ参加し意見交換等を行い、他の事業所の良いところは取り入れたりするようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人やご家族からこれまでの生活歴や思い等を聞きとり、本人様が安心して生活ができるように対応している。		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際には自宅でどのようなことに困っていたかを聞いている。また、入居にあたって不安なことがないかを聞くようにして、対応方法を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの利用が妥当ではないと判断した場合には、現在の状況に適したサービス等の説明・紹介を行うような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事や昔からしてきた事などの把握をし、役割を持っていただき、職員と利用者さんが共に支えあう関係に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時には、日頃の生活状況をお伝えしています。入居後もご家族との外出等は積極的にしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人が訪ねてくる人もおり、自分の部屋でゆっくりと話が出来るようにしている。来訪しやすい雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う人、合わない人の把握に努め、より良い関係が築けるように職員が介入し、利用者様同士が支え合える環境作りに心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要があれば、ご家族等の相談には応じる。必要があれば関係機関等へ繋ぐようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の意向は十分に聞き、本人の思いも出来る限り聞いて、介護計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活習慣の把握に努め、本人のケアに活用できそうなことは積極的に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の出来ることとできないことの見極めは常時行っており、出来ることはこれからも出来るように援助している。		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のミーティングで入居者の状況等について話し合いの場を持ちその時々に応じたケアプランを作成している。必要に応じて主治医等からも意見をもらっている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録に生活状況のすべてを記録するようにしており、職員間で情報共有が出来るように申し送りノートも活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホームで対応できないような場合は関係機関に相談をして、入居者のニーズに応えられるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の地域資源を完全に把握は出来ていないが、今後、入居者に合うような社会資源がある場合はコーディネートできるように援助していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>万全の健康管理を行うために協力医療機関と連携し、異常の早期発見、重度化予防に努めている。必要に応じて専門医の受診も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>現在、看護職員は勤務していないが協力医療機関と連携し、健康管理に努め、異常がある場合は連絡し対応してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には入居時の情報提供を行い退院時には必要に応じて、担当医等とのカンファレンスに参加し、退院後もスムーズにホームでの生活が出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>現在、看取りは行っていないが重度化した場合でも、ご家族等と相談しながら出来る限り対応をしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>年に1回救命救急の訓練に職員は参加し、事故等の緊急時にも対応出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の消防訓練を実施しており、今後も継続して行っていく。</p>		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報外部に漏れないように細心の注意を払っている。 特に入居者の個人名はアルファベット4文字を用いて表記し、個人名が特定されないように配慮している。 (例：三原太郎様 → MIHT様)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様が答えやすいような声掛けをしたり、意思を尊重した声掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペース・体調・気持ちに合わせて過ごしていただくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時にはお洒落したりできるよう支援している。 地域の美容院にも協力してもらい、美容院の送迎でカットやカラーリングに行かれる入居者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、職員と一緒に調理や片付けに参加していただけるように対応している。 入居者の誕生日にはちらし寿司やケーキを作っており、楽しみにして下さる入居者もいる。		

自己評価	外部評価	(2F)項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の水分摂取量と食事摂取量を介護記録に記入している。食事は栄養バランスを考えたものを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の清潔保持ができるよう、毎食後の口腔ケアを行っている。自分で出来る方は、自己で出来るような声掛け・支援に心掛けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、出来るだけ自分でトイレで排泄できるように状態に合わせた援助をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量に留意し、便秘を予防している。慢性的な便秘の場合には、主治医にも相談している。毎朝牛乳を飲んでいただいている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人のタイミングを聞いて、気持ちよく入浴していただけるように対応している。</p>		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の生活習慣に合わせて、日 中も自分の居室で好きな時に休 息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	連携している保険調剤薬局の薬 剤師に処方薬の作用・副作用等 の説明をもらっている。 状態に応じて粉碎等をしてもら い内服しやすいようにしている。 薬の変更や状態変化があるとき には、申し送りで連携を図って いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	自分のしたいことができるよう にご家族の方とも協力しながら、 対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	年に1~2回は入居者と職員が 一緒に外出する機会を持てるよ うにしている。 ご家族の方と定期的に外出す る入居者も多くいらっしゃる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	家族の協力で所持したい方は 所持できるような体制にしてい る。 一緒におやつを買いに行ったり 頼まれることもある。		

自己評価	外部評価	(2F) 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話も手紙も自由にやり取りをしていただいている。出された手紙に返信が届きとても喜ばれたりされる。また職員がご家族様に電話をし、本人に代わり話をしていただいたり都度対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに季節感を出すために毎月、壁画を工夫している。リビングは日当たりが良いので、自然な光で過ごしている。リビングにいる入居者が天気の変化に気付いて職員に教えてくれることも多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人一人、自分のしたいことが出来る様に配慮している。また、入居者同士で協力して作業を行われることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には自分が自宅で生活していた時に使用していたものを持ち込んでもらうようにご家族にもお願いしている。個々の状態に合わせ家具やポータブルの配置を変えたり、環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレやテーブル、居室等にはわかりやすいように、名札・目印をつけて対応している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 平成30年10月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流が少ない	地域の町内会等との関係作りを行い、お互いに助け合える関係を作る。	①地域の町内会の活動への参加。 ②事業所の避難訓練等への参加の誘い。 ③運営推進会議に参加していただく人を増やす。	12ヶ月
2	12	重度化した場合や終末期の対応が十分に出来ていない状況である	重度化や看取りに対しての知識を職員が習得する。	①看取りに対しての研修に参加する。 ②重度化した場合の介護方法等を確立させる。 ③実際に看取り介護を実施している事業所等に見学に行ったり、話を聞いたりする。	12か月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。